



# 活力ある秋田 Vol.62

## 秋田の魅力をさらに磨き、 情報発信を

〔秋田市観光クチコミ大使〕  
 (株)ジェイアール東日本商事

代表取締役社長 横山裕司氏

### 秋田の知られていない魅力

2003年から3年間、JR東日本秋田支社長を勤めさせていただきました。初めての秋田でしたが、食や日本酒、温泉、自然という定番観光素材に優れていることは、1997年の秋田新幹線開業直後の秋田デスティネーションキャンペーンを担当したこともあり、十分知っているつもりでした。

しかし思いもよらない発見も多くありました。たとえば昨年開館した県立美術館に移転された藤田嗣治の大作「秋田の行事」。あれだけの作品を秋田の方があまり認識していなかったことに驚かされました。今回、利便性や認知度も圧倒的に高まり、本当に嬉しく思っています。その他、最近はそうでもないようですが、天然ふぐも産地でありながらあまり知られていませんでした。

こうした素材はまだ他にもあります。「よそ者」の意見も参考に自分たちで再発見し、かつ素材のままではなく、アプローチしやすい環境を作り出し、その上で県外に発信していくというプロセスを作り出していくことが大事だと思います。

### 地産品ショップ「のもの」

今年3月、当社が直営店舗として運営している地産品ショップ「のもの」秋葉原駅店が、上野駅に続いて2号店としてオープンしました。「のもの」はJR東日本が取り組んでいる地域再発見プロ



のもの秋葉原店

ジェクトの一つで、東日本の各地域の食を中心として「旬のもの」「地のもの」「緑(ゆかり)のもの」を紹介しています。おかげさまで首都圏の方に東北の良さを知っていただく一つの拠点となってきています。

常設コーナーとは別に、上野駅では昨年10月に秋田DCと連動して、秋田県や秋田銀行とともに「秋田のもの」フェアを開催し、こちらも大変好評でした。ちなみに「のもの」での年間を通じた売上げで、秋田のごま餅とバター餅が1・2位を争っています。これからも秋田ならではのものを取り上げていきます。東京にはあまり出ていないけど、こんないいものもあるよというお話しをいただければ幸いです。

### 歴史を観光に生かそう！

現在、秋田産業サポータークラブの一員としても、歴史を観光に活かそうという議論をしています。昨年は横手市と平泉藤原三代の源流というテーマで、東京でシンポジウムを行い、今は湯沢市と小野小町をテーマとした町おこしを話し合っています。また今年の秋には、縄文遺跡の世界遺産登録応援のシンポジウムを東京で開催します。

秋田には学ぶべき歴史もあり、歴史は観光素材の一つでもあります。ただこれも地元の関係者の熱意と行動がなければ空回りしてしまいますので、地元の盛り上がり期待しながら取り組んでいるところです。

これからも微力ですが、秋田の素晴らしさを首都圏で発信していきたいと思えます。

#### ■略歴

1953年	高知県生まれ
1976年	東京大学法学部卒業
2003年	JR 東日本 秋田支社長・大宮支社長
2009年	(株)JTBパブリッシング 専務 → 社長
2013年	現職